

# ご当地自慢

日本百名山「苗場山」

66

北信署

北信署管内の北部、長野県と新潟県境に位置する日本百名山のひとつ「苗場山」を紹介します。

苗場山は標高二、一四五メートル、成層火山のどっしりと構えた山容を呈し、山頂付近は溶岩台地で、オオシラビソの天然林に囲まれた広大な高層湿原が形成されています。

このよ  
うな平坦  
な山は、

日本では珍しく、上信越高原国立公園に指定されるとともに、長野県では生物群集保護林に指定し、



佐武流山から苗場山を望む

原則として人手を加えずに自然の推移に委ねた保護管理を行っています。

山頂南西側から標高一、八〇〇メートルに広がる四平方キロメートルにも及ぶ高層湿原には、およそ三千箇所もの池塘が点在しており、これらは、近年の堆積物調査で約七千年前から形成が始まったと考えられています。

無数の池塘には、ミヤマホタルイやヤチスゲが自生し、まるで苗代のように見えることから「神の苗代田」とも呼ばれ、山頂には伊米神社が祀られています。

苗場山の登山は、毎年六月一日に栄村小赤沢の苗場山神社で行われる「秋山郷・苗場山・鳥甲山・佐武流山山開き」でシーズンが始まります。ここで、長野県側のメインルートである小赤沢からのルートを紹介します。

三合目駐車場から山頂までは三時間半程度かかります。

一合目毎に道標があり、標高と所要時間を確認しながら登ります。三合目と四合目には水場があり、周辺のイワカガミやサンカヨ

ウ、マイヅルソウなどが楽しめます。

五合目と六合目の間には風穴があり、シヤクナゲやゴゼンタチバナ、ヨツバシオガマなどの花々を見ながら進みます。

六合目から八合目の間には岩場があり、鎖が整備されています。

八合目を少し登ると視界が広がり湿原となり、木道が整備されています。

池塘やワタスゲ、チングルマ、ニッコウキスゲなどの花々、遠くには鳥甲山などを眺めながら進むと九合目、

オオシラビソの樹林帯を抜けると、広大な高層湿原が現れ、山頂方向には「苗場山頂ヒュッテ」

(宿泊可)の屋根が見えてきます。

高層湿原の先には佐武流山や岩菅山などが望めます。いよいよ山頂です。



自生するニッコウキスゲ



山頂からの眺望はすばらしく、鳥甲山、妙高山、岩菅山、佐武流山、北アルプス、南アルプスなどの山々が続きます。これから秋にかけては、高層湿原の草紅葉と池塘が織りなす苗場山でしか見ることのできない絶景が楽しめます。



湿原から鳥甲山遠望